

ピアホームだより

2014. 1. 10

新年を迎えて

今年4月に、アドボケート会就労継続B型事業
リトルハウス作業所の移転を予定しています。

開所当初、やっとの思いで施設を見つけた
時の喜びを思い起こしています。色んな方とお
話しする機会を得ましたが、面と向かって差別
を口にする時代は過ぎたと感じました。それ
でも普通の施設を確保することは大変困難で
した。

それから10年、NPO法人となり、グループホ
ーム事業も開始して、精神障害者の社会復帰
施設としての体裁を整えて来ました。

一区切りを経て、本年のNPO総会において、
リトルハウスの移転・グループホーム卒後の住
まいを設立して行くという長期的事業計画を計
って来ました。幸い運営は順調です。元気なう
ちに事業の充実を計って行きたいものです。

新しい作業所となる施設には200平米以上

の空間を確保できました。精神障害者の復帰
施設として次なる目標を持って力が続く限り進
めて行きたいと考えています。

第36回家族と専門家の交流会(続き)

閉じこもった病者をいかにして医療に繋げて
行くか？いわゆる病職がなく一医療に繋ぐこと
すら出来なくて家族が困り果てているケースが
多々見受けられます。

聖ロカ病院の角田先生による訪問看護事業
の発表を頂き、この設問を考えてみます。

訪問看護事業は、とても小回りが利き融通の
利く制度のように感じました。訪問看護では、
本人の同意がなくても家族の支援で関わって
行くことが出来るそうです。聖ロカで行っている
支援は医療的な支援に限らず日常生活を含む
多岐にわたる支援でした。案外、訪問看護事
業を利用することで関わりを拒んでいる病者に
信頼関係を築き、医療へ繋げ繋げて行くことが
出来るのではないのでしょうか？

何か制度による大掛かりな仕掛け？を期待し
ていましたが、魔法の解決策などなく、やはり地
道に説得して行くこと一訪問看護はそのことを
教えてくれたように思いました。

70歳まで定年延長 千田 耕平

昨年12月、65歳となり、前期高齢者の仲間
入りとなりました。この間に後継者が出て来て、
私は非常勤で悠々自適と考えていましたが、事
態は逆に進み、今や管理者・サービス管理責
任者・世話人と全て引き受けるようになってしま
いました。

GH事業は奥深いものがあります。まだまだ元
気、今回の理事会で定年延長が承認されまし
たので、皆さん引き続きよろしくね。

新任です 飯村 敦(ピアホームⅡ担当)

11月18日より世話人に就くことになりました。
色々とお話しを聞きながら少しでも皆様の生活
が良い方向に向かう様、尽力して行きたいと思
っています。

世話人業務はほとんど初めてですので、ご迷
惑をおかけすることがあるかもしれません。その
都度ご注意ください。一日も早い世話人として
お役に立てる存在になりたいと思います。

1月の行事

<1月15日>都自立生活支援課相談

<2月1日>クラブハウス町田評議会